

市街地再編成に関する統合評価システム構築に向けて

正会員 ○永野 康行^{*1}
 正会員 山田 克幸^{*2}
 正会員 安枝 英俊^{*3}
 正会員 木多 道宏^{*4}

*1 兵庫県立大学大学院シミュレーション学研究所 教授・博士（工学）
 *2 山田克幸建築設計事務所 代表
 *3 兵庫県立大学環境人間学部 准教授・博士（工学）
 *4 大阪大学大学院工学研究科 教授・博士（工学）

Integrated evaluation system construction about urban area reorganization

○NAGANO Yasuyuki^{*1}
 YAMADA Katsuyuki^{*2}
 YASUEDA Hidetoshi^{*3}
 KITA Michihiro^{*4}

*1 Prof., Grad .Sch. Sim .Studies ,University of Hyogo, Dr. Eng.
 *2 President, Architectural design office of YAMADA KATSUYUKI
 *3 Associate prof., Hum. Sci. and Environ, University of Hyogo, Dr. Eng.
 *4 Prof. Graduate School of Eng.,Osaka Univ.,Dr.Eng.

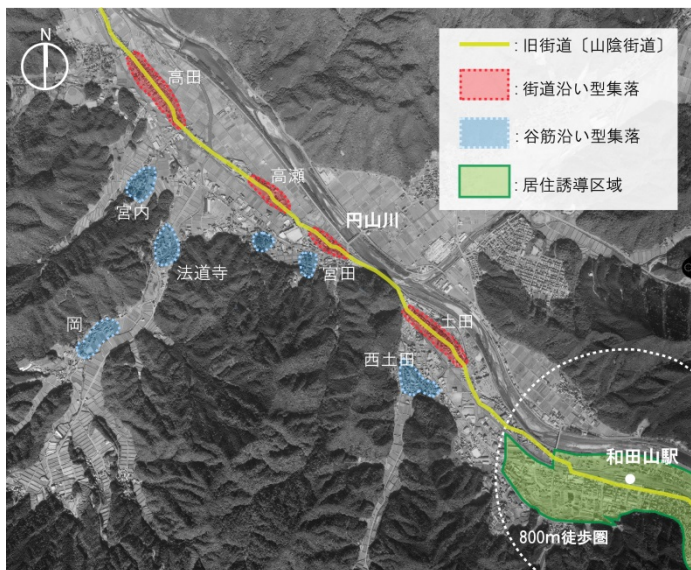
1. はじめに

現代は、人口減少が進み、近代に形成された郊外部の過疎化が顕在化している。これに対応するため、各市町村が立地適正化計画や、都市計画マスタープラン等により、都市のコンパクト化や多極化を目指し、人口減少時代に対応した都市構造への転換を図ろうとしている。また、移動・流通・通信・AI・省エネルギーなどの技術革新により、産業構造や流通構造に大きな変化が生じ、従来都市構造を規定してきた諸条件が大きく変化しようとしている。さらに、大災害の時代を迎え、津波被害が想定される臨海部や、土砂災害の多発する地域では、集団移転などの事前対策を必要としている。

以上のように、現代は都市や地域の構造を再編し、未来の相応しい構造へと誘導するべき転換期を迎えている。その構想は、地表面に表出している土地利用や構造物の配置のみならず、それらを背後や下部から規定する自然・生態系・地殻などの諸条件をも考慮する必要がある。そこで、当研究グループは、地殻、地盤、地質、地形、生態系、インフラ、建築物、社会組織、制度の情報を整備・分析し、未来の都市・地域構造を構想するための「統合評価システム」を構築することを目標とし、ケーススタディとして、朝来市における立地適正化計画を取り上げ、自然・生態・地殻にわたる観点から再評価を踏まえて、居住誘導区域外の集落において居住を継続する可能性について検討するものである。

2. 計画の概要

立地適正化計画においては、駅から 800m 徒歩圏が居住誘導区域に指定される。本稿ではケーススタディの対象として、兵庫県朝来市大蔵地区^{1),2),3)}を取り上げた。朝来市大蔵地区を対象とした理由として、市レベルでは、兵庫県但馬地域の最南部に位置しており、姫路市等に通勤が可能であることや、行政が定住支援策が積極的に推進していること、地区レベルでは、円山川という水系があり、旧街道（山陰街道）沿い型集落や、谷筋沿い型集落が複数存在していることが挙げられる（図1）。本稿では、複数の集落のうち、「おもて通り（旧街道）」沿いに展開する街路沿い型集落（図2）を取り上げる。この集落の住宅は、「おもて通り」と「うら通り」に面しており、「おもて通り」は壁面線の揃うまち並みが残り、「うら通り」には農器具倉庫や車庫が多い。また、空き家や空地の他、「おもて通り」で建物がセットバックして前面道路に駐車場が面する、あるいは、敷地分割をして「うら通り」だけに接する住宅なども発生している。



国土地理院・空中写真閲覧サービス 2005.11.10 撮影

図1 朝来市和田山町大蔵地区の概要

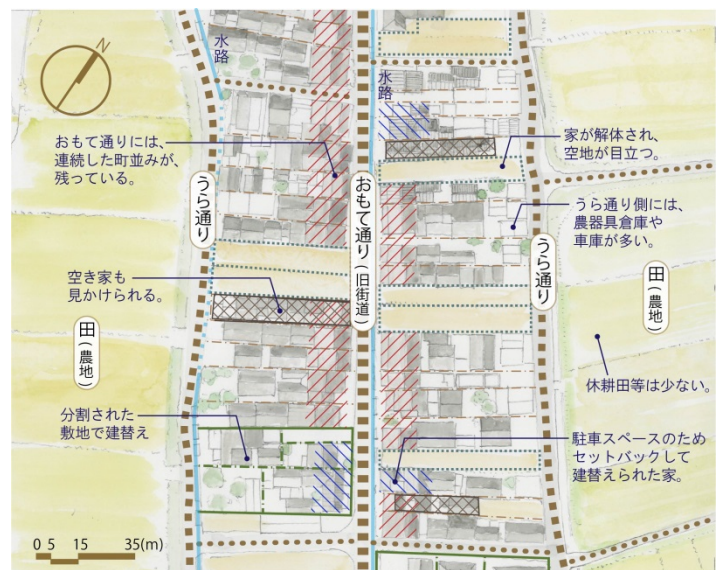


図2 街道沿い型集落の構造

所在地：兵庫県朝来市
 主な用途：まちづくり、住宅
 キーワード：市街地再編成・統合評価・立地適正化計画

Location : Asago city, Hyogo
 Main Use : Community development, House
 Keywords : Urban Area Reorganization, Integrated Evaluation, Location Rationalization Plan

3. 提案の内容

本稿では、居住誘導区域外の集落において居住を継続するためには、集落において高齢者と若い世代が共存することを目指した。高齢者だけでなく、多様な世代が共存することが重要であると考えた。本提案では、「おもて通り」と「うら通り」に接道するという空間構造を活かし、一部の住棟を、Uターンした子世代や、Iターンする若い世代に賃貸する(図3)。例えば、ユニットAでは、50代の夫婦が所有する住棟の一部を、シングルファミリーが賃貸し、子育てのサポートも受ける。空き家や空き地については、この集落のまちづくりを推進する主体が、所有者から土地と建物を借り上げて、若い世代に対して転貸する。集落の空間構造を活かした住み継ぎを実現するためには、「おもて通り」の壁面線の揃うまち並みを継承するために、「おもて通り」からセットバックして、駐車場を計画するのではなく、「うら通り」を介して反対側にある農地の一部を駐車場とすることを想定している(図4)。さらに、集落のまちづくりを推進する主体が、将来的にはまちづくり会社となり、転貸事業だけでなく、空き家の買取りや改修事業を実施することで、集落全体のストックをより包括的に活用することができるようになる。また、「うら通り」側の駐車場を利用するために、「おもて通り」に接道する住棟から、通り庭や路地を通して「うら通り」に直接アクセス可能となる配置計画や、複数の住棟の一部を賃貸する場合に、建具の設置位置等を変更することで、賃貸する空間を容易に変更できる空間計画とした(図5)。



図3 街道沿い型集落における住まい方の提案



図4 街道沿い型集落における住まい方の提案(将来像)

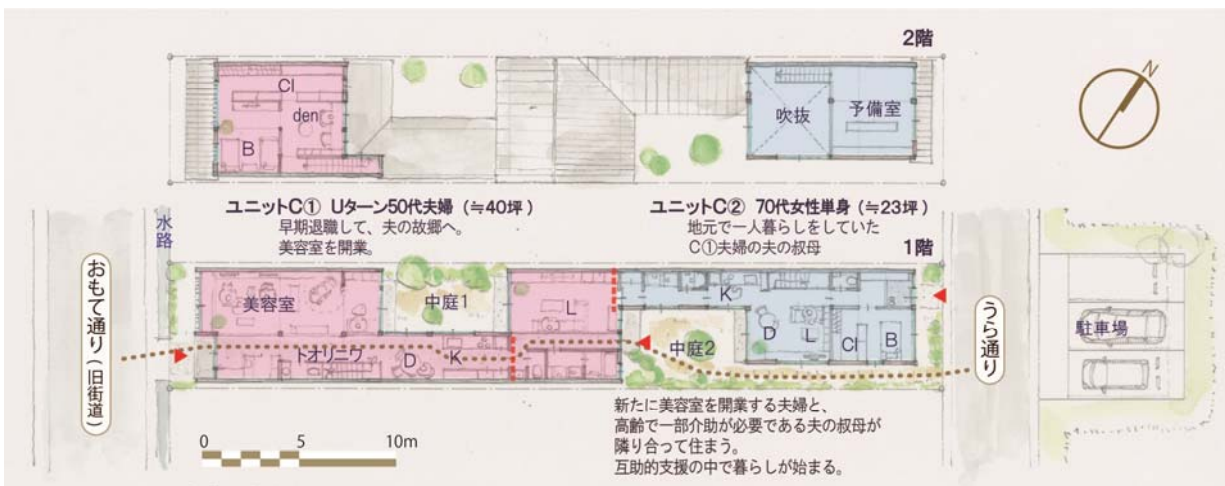


図5 二戸一棟型住居の提案(ユニットC)

謝辞
 本研究は平成 30 年度公立大学法人兵庫県立大学特別研究助成先導研究B (異分野融合)「通常時から災害復興後にわたる統合減災シミュレーション」(研究代表者：永野康行)による成果の一部である。ここに記し謝意を表す。

参考文献
 1) 朝来市都市環境部都市開発課：朝来市都市計画マスタープラン 朝来市のこれからの都市づくり、(2019年3月15日参照)
<https://www.city.asago.hyogo.jp/cmsfiles/contents/0000002/2343/honpen.pdf>, 2013.3
 2) 朝来市：朝来市 立地適正化計画、https://www.city.asago.hyogo.jp/cmsfiles/contents/0000006/6856/01_keikaku_honpen.pdf、(2019年3月15日参照)、2017.3
 3) 朝来市大蔵地区地域自治協議会：大蔵じろはったん村のむらづくり計画 めざせ!! あたかいい心のふれあう大蔵ユニバーサル社会、
https://www.city.asago.hyogo.jp/cmsfiles/contents/0000000/72/04_keikak_ookura.pdf、(2019年3月15日参照)、2010.2